

第3節 観光・にぎわい

(1) これまでの主な取組

- ・ ところざわサクラタウンやリニューアルオープンした西武園ゆうえんち、みどり豊かな狭山丘陵等の所沢の魅力を発信しました。また西武鉄道株式会社や西武線沿線自治体で構成する西武線沿線サミットでは、マルシェへの出店やフォトコンテストの実施などにより、沿線自治体の魅力を相互に発信しました。
- ・ 所沢市観光情報・物産館YOT-TOKOを開館し、情報誌「YOT-TOKO news」やSNSを活用しながら観光資源や特産品など所沢の魅力発信に取り組みました。
- ・ 商店街の活性化を図るため、商店街の空き店舗を利用して新規出店を行う事業者や地域のにぎわいづくり、施設の維持管理を行う商店街に対して支援を行いました。また、中心市街地活性化拠点施設「野老澤町造商店」（通称まちぞう）や中心市街地でにぎわいづくりを行う団体に対して支援を行いました。
- ・ 市内外からの観光客の増加や回遊性の向上を目的として、「『まち』×『みどり』のおさんぽコース」の道標や観光案内板の整備を開始するとともに、シェアサイクルの実証実験として市内各所に新たにステーションを設置しました。
- ・ 本市を含む武蔵野地域で継承されている「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が世界農業遺産に認定されました。これら特色ある農業について理解が得られるよう、農産物収穫体験や家庭菜園教室の実施のほか、体験農場の増設により市民が農と触れ合う機会を増やしました。
- ・ 狭山茶やさといもなどの本市の農産物を使った商品をはじめとして、所沢の魅力を活かした商品を「所沢ブランド特産品」として認定しました。また、各種イベント事業やパンフレット等の発行を通して、商品や農産物のPRと生産者支援を行いました。
- ・ 狭山茶の新たな需要を見出すため、所沢市茶業協会が行う海外展開の取組を支援しました。

(2) 課題

- ・ 多様な観光拠点を活かすとともに新たな観光スポットを発掘し、それらの更なる磨き上げを図っていく必要があります。
- ・ **新所沢・小手指地域では、シンボリックな商業施設が閉店したことにより地域の魅力発信やにぎわいの創出などを検討する必要があります。**
- ・ 広く所沢市の観光資源をアピールするため、近隣自治体との広域での連携を深めていく必要があります。また、ところざわサクラタウンや西武園ゆうえんちを訪れる観光客が市内を回遊するような取組を進めていく必要があります。
- ・ インバウンド需要に向けた受入環境の整備として、ガイド養成や多言語案内の強化をしていく必要があります。
- ・ 「所沢市と言えば〇〇」「生産量第〇位」といったような“所沢らしさ”あふれる特産品の開発と、農産物のブランド化を図っていく必要があります。
- ・ 農産物のPRや体験型の事業等を通じて、都市と農業が調和する「都市近郊農業」としてのイメージが定着するよう、市内外での認知を更に広げていく必要があります。